

$p$  を正の実数とする.  $O$  を原点とする座標平面上に曲線  $C_1: y = \frac{1}{x}$  と曲線  $C_2: y = -\frac{3}{x}$  がある. また,  $C_1$  上の点  $P\left(p, \frac{1}{p}\right)$  における  $C_1$  の接線を  $\ell$  とおき,  $\ell$  と  $C_2$  の 2 つの共有点を  $Q_1, Q_2$  とする. ただし,  $Q_1$  の  $x$  座標は正とする.

点  $Q_1, Q_2$  における  $C_2$  の接線をそれぞれ  $m_1, m_2$  とおき,  $m_1$  と  $m_2$  の交点を  $R$  とする. また,  $\overrightarrow{RQ_1}$  と  $\overrightarrow{RQ_2}$  のなす角を  $\theta$  ( $0^\circ < \theta < 180^\circ$ ) とする. このとき, 以下の問 (i)~(v) に答えよ. 解答欄には, (i)~(iii) については答えのみを, (iv), (v) については答えだけでなく途中経過も書くこと.

- (i)  $Q_1, Q_2$  の座標をそれぞれ  $p$  を用いて表せ.  
(ii)  $m_1, m_2$  の方程式をそれぞれ  $p$  を用いて表せ.  
(iii)  $R$  の座標を  $p$  を用いて表せ.  
(iv)  $t = p^2 + \frac{1}{p^2}$  とおく. 内積  $\overrightarrow{RQ_1} \cdot \overrightarrow{RQ_2}$  を  $t$  を用いて表せ.  
(v)  $p$  がすべての正の実数を動くとき,  $\cos \theta$  の最小値とそのときの  $p$  の値をそれぞれ求めよ.

(26 立教大 理系 2 月 9 日 2)

【答】

- (i)  $Q_1\left(3p, -\frac{1}{p}\right), Q_2\left(-p, \frac{3}{p}\right)$   
(ii)  $m_1: y = \frac{1}{3p^2}x - \frac{2}{p}, m_2: y = \frac{3}{p^2}x + \frac{6}{p}$   
(iii)  $R\left(-3p, -\frac{3}{p}\right)$   
(iv)  $\overrightarrow{RQ_1} \cdot \overrightarrow{RQ_2} = 12t$   
(v)  $p = 1$  のとき  $\cos \theta$  は最小値  $\frac{3}{5}$  をとる.

【解答】

$$C_1: y = \frac{1}{x}$$

$$C_2: y = -\frac{3}{x}$$

- (i)  $f(x) = \frac{1}{x}$  とおく.

$$f'(x) = -\frac{1}{x^2}$$

であり,  $C_1$  上の点  $P\left(p, \frac{1}{p}\right)$  ( $p > 0$ ) における  $C_1$  の接線  $\ell$  の方程式は

$$y = -\frac{1}{p^2}(x-p) + \frac{1}{p}$$

$$\therefore \ell: y = -\frac{1}{p^2}x + \frac{2}{p}$$

である.  $\ell$  と  $C_2$  の 2 つの共有点  $Q_1, Q_2$  の  $x$  座標は

$$-\frac{1}{p^2}x + \frac{2}{p} = -\frac{3}{x}$$

$$x^2 - 2px - 3p^2 = 0$$

$$(x-3p)(x+p) = 0 \quad \therefore x = -p, 3p$$

である.  $Q_1$  の  $x$  座標は正であるから,  $Q_1, Q_2$  の座標は

$$Q_1\left(3p, -\frac{1}{p}\right), \quad Q_2\left(-p, \frac{3}{p}\right) \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(ii)  $g(x) = -\frac{3}{x}$  とおく.

$$g'(x) = \frac{3}{x^2}$$

であり,  $C_2$  上の点  $\left(t, -\frac{3}{t}\right)$  における接線の方程式は

$$y = \frac{3}{t^2}(x-t) - \frac{3}{t}$$

$$\therefore \ell: y = \frac{3}{t^2}x - \frac{6}{t}$$

である. よって, 点  $Q_1\left(3p, -\frac{1}{p}\right), Q_2\left(-p, \frac{3}{p}\right)$  における  $C_2$  の接線  $m_1, m_2$  の方程式はそれぞれ

$$m_1: y = \frac{1}{3p^2}x - \frac{2}{p}, \quad \dots\dots(\text{答})$$

$$m_2: y = \frac{3}{p^2}x + \frac{6}{p} \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(iii)  $m_1$  と  $m_2$  の交点  $R$  の  $x$  座標は

$$\frac{1}{3p^2}x - \frac{2}{p} = \frac{3}{p^2}x + \frac{6}{p}$$

$$\frac{1-9}{3p^2}x = \frac{8}{p} \quad \therefore x = -3p$$

である. よって, 交点  $R$  の座標は

$$\left(-3p, -\frac{3}{p}\right) \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(iv) (i), (iii) より

$$\overrightarrow{RQ_1} \cdot \overrightarrow{RQ_2} = \left(6p, \frac{2}{p}\right) \cdot \left(2p, \frac{6}{p}\right) = 12p^2 + \frac{12}{p^2}$$

であり,  $t = p^2 + \frac{1}{p^2}$  とおくと

$$\overrightarrow{RQ_1} \cdot \overrightarrow{RQ_2} = 12t \quad \dots\dots(\text{答})$$

である.

(v)  $p$  がすべての正の実数を動くときの  $t$  のとり得る値の範囲は

$$t = p^2 + \frac{1}{p^2} \quad \therefore p^4 - tp^2 + 1 = 0$$

を満たす  $p (> 0)$  が存在するような  $t$  の値の集合である.  $q = p^2$  とおき  $q^2 - tq + 1 = 0$  が正の解  $q$  をもつための  $t$  の条件を求める.  $h(q) = q^2 - tq + 1$  とおくと,  $h(0) = 1 (> 0)$  であることに注意すると,  $t$  の条件は

$$\begin{cases} \text{判別式: } t^2 - 4 \geq 0 \\ \text{軸の位置: } \frac{t}{2} > 0 \end{cases} \quad \therefore t \geq 2$$

である.

$\theta$  ( $0^\circ < \theta < 180^\circ$ ) は  $\overrightarrow{RQ_1}$  と  $\overrightarrow{RQ_2}$  のなす角であるから

$$\begin{aligned} \cos \theta &= \frac{\overrightarrow{RQ_1} \cdot \overrightarrow{RQ_2}}{|\overrightarrow{RQ_1}| |\overrightarrow{RQ_2}|} = \frac{12t}{\sqrt{36p^2 + \frac{4}{p^2}} \sqrt{4p^2 + \frac{36}{p^2}}} \\ &= \frac{12t}{\sqrt{12^2 p^4 + \frac{12^2}{p^4} + 36^2 + 4^2}} = \frac{12t}{\sqrt{12^2 \left( p^2 + \frac{1}{p^2} \right)^2 - 2 \times 12^2 + 1312}} \\ &= \frac{12t}{\sqrt{12^2 t^2 + 1024}} = \frac{12}{\sqrt{12^2 + \frac{1024}{t^2}}} \\ &\geq \frac{12}{\sqrt{12^2 + \frac{1024}{2^2}}} \\ &= \frac{12}{\sqrt{144 + 256}} \\ &= \frac{12}{\sqrt{400}} \\ &= \frac{3}{5} \end{aligned}$$

である。等号が成立するのは

$$\begin{aligned} t = 2 \quad \text{すなわち} \quad p^4 - 2p^2 + 1 = 0 \\ (p^2 - 1)^2 = 0 \quad \therefore p = 1 (> 0) \end{aligned}$$

のときである。

よって、 $\cos \theta$  は

$$p = 1 \text{ のとき, 最小値 } \frac{3}{5} \quad \dots\dots(\text{答})$$

をとる。

- 数学 III の微分を利用して  $t$  の値域を求めてもよい。

$$t' = 2p - \frac{2}{p^3} = \frac{2(p^4 - 1)}{p^3} = \frac{2(p+1)(p-1)(p^2+1)}{p^3}$$

であり、 $p > 0$  においては  $p = 1$  で  $t$  は極小かつ最小となり、最小値は 2 である。さらに、 $t$  は  $p > 0$  において連続であり  $\lim_{p \rightarrow \infty} t = \infty$  であるから、 $t$  の値域は

$$t \geq 2$$

である。

- 相加平均・相乗平均の関係により

$$t = p^2 + \frac{1}{p^2} \geq 2\sqrt{p^2 \times \frac{1}{p^2}} = 2 \quad (\text{等号成立は } p = 1 (> 0) \text{ のとき})$$

であり、これは  $t$  の最小値が 2 であることを示している。 $\cos \theta$  が最小となるのは  $t$  が最小となるときであるから、 $\cos \theta$  は  $p = 1$  のとき最小となる。